

第6学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

1 小単元

「江戸幕府と政治の安定」

2 小単元について

本単元は、学習指導要領第6学年の目標及び内容（2）「我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。」このうち、ア「次のような知識及び技能を身に付けること。その際、我が国の歴史上の主な事象を手掛かりに、大まかな歴史を理解するとともに、関連する先人の業績、優れた文化遺産を理解すること。」の（キ）「江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解すること。」を受けて扱うものである。

前単元までに児童は、織田信長の楽市・楽座により商業が活発になったことや豊臣秀吉の兵農分離や太閤検地により農民・町人と武士の身分が区別されたことで、徐々に天下統一が果たされていく様子を学習している。これを受けて本単元では、関ヶ原の戦いで徳川家康が勝利を収め、全国統一が完成し、その後、大名の統制や身分制、貿易の制限が行われたことで江戸幕府の権力が確立し、約260年続く安定した時代が訪れたことを学習する。

中でも、江戸時代に確立した身分制は重要である。児童は武士と百姓の身分の関係を、武士から百姓への一方的な支配によるものと捉える傾向にある。しかし、江戸時代の武士は、武家諸法度の登場や戦のない時代が訪れたことで、戦に出ていく戦闘集団から、学問を修め、より良い政治を行う為政者へと性格を変化させた。この武士の役割の変化こそが、政治の安定の要因である。本単元では、武士の社会的役割の変化に着目しながら、百姓が一方的な支配の対象になっているのではなく、武士と百姓が共存の関係であったことを気付かせたい。


そこで、本小単元の指導に当たっては、次のように指導を工夫する。つかむの段階では、年表を調べて江戸時代が他の時代に比べ長いことを捉えさせる。そして、江戸幕府が治めていく上で対応しなければならなければいけないものを児童に問い、江戸時代には多様な身分があったことに気付かせたい。

調べるの段階では、それぞれの立場にたって考えられる資料の提示を行い、児童同士が歴史的事象を理解し、それぞれの立場の思いを考察することで、歴史的事象を多角的に捉える社会的な見方・考え方を養っていけるようにしたい。その際、幕府と大名、武士と百姓・町人（その他の身分）、幕府と外国を分けて単元を構成し、それぞれの立場に立って資料を読み取るようにする。

本学級の児童は、歴史的事象に対し、関連付けたり、総合したりして考えることが苦手である。予想する学習に際しても、根拠なく予想する児童も多い。こうしたことから、本単元では、武士を中心とした身分の関係を整理し、関連付けて考えられる資料の開発をする。

こうした活動を通して、江戸時代がなぜ約260年間も続く、安定した世の中だったのかを明らかにしたい。そして、平和な時代の中で育まれた多様な文化に目を向け、その時代に生きた人々の気持ちに迫れる児童の育成を図りたい。

3 児童の実態

<p>社会科のどのような学習が好きですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地名や人名を覚えること。39% ・地名や人名をノートやポスター、新聞にまとめること。27% ・グラフや表から新しい発見をすること。21% ・グラフや表を作ること。9% ・地名や人名を使って何か説明すること。3% 	
<p>江戸時代にはどのような身分の人がいたか。 (複数回答可)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない45% ・武士27% ・百姓(農民)27% ・天皇や貴族15% ・町人や商人9% ・それ以外の身分3% 	
<p>「支配」という言葉にどのようなイメージをもっていますか。</p>	<p>悪いイメージ 91%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自由な行動ができなくなる印象がある。36% ・争って自分のものにするというイメージがある。15% ・人を操るようなイメージがあるから。15% ・偉い人の言うことを聞いたり、指示されたりするイメージがあるから。9% ・本を読んでいると悪い意味合いで使われることが多いから。6% ・人や物を占領するイメージがある。3% ・住むところを制限されそうなイメージがあるから。3% ・人権が制限されそうなイメージがあるから。3%
	<p>良いイメージ 9%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人々を支えるイメージがあったから。6% ・リーダーのような人が、その地域をまとめ、よりよくすると思っ たから。3%
<p>江戸時代に支配していたのはどのような人たちでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない。45% ・将軍15% ・殿様3% ・武士3% ・身分が高い人18% ・天皇3% ・江戸幕府3% ・強盗などの犯罪者6% 	
<p> 『七難七福図』を見て、江戸時代の農民(百姓)は何をしているところでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・米を袋に詰めている。33% ・米を食べている。3% ・お米を作っている。9% ・もみ殻をとったりしている。6% ・わからない。3% ・武士に米を納めている。21% ・米を選別している。9% ・武士のために働いている。6% ・お米を洗っている。3% ・種粃をしている。3% 	
<p>『七難七福図』を見て、江戸時代の武士は何をしているところでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不正が行われていないかチェックしている。48% ・農民に作らせた米を納めさせている。9% ・指導している。9% ・わからない。6% ・農民(百姓)に働かせている。6% ・米の取り立てを行っている。3% ・米がどれだけとれたのか計算している。3% ・何かを記録している。3% 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・お弁当を食べている。3% ・毒が入っていないかチェックしている。3% ・話し合いをして、なにか企んでいる。3%
『七難七福図』を見て江戸時代の武士と農民（百姓）はどのような関係だったのか考えましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・わからない36% ・武士のほうが百姓より身分が高く、農民を従わせる関係。33% ・農民（百姓）がお米を収穫し、武士に納める関係。15% ・上司と部下のような関係。9% ・農民（百姓）が米を作り、武士は農民（百姓）を守る関係。 ・奴隷のような関係。

《考察》

本学級の児童は何かを調べたり、予想したりする活動では、意欲的に取り組む姿が見受けられる。しかし、調べたことを関連付けたり、総合したりすることを苦手としている児童が多い。また、予想し、調べる活動でも、調べたことの表面的理解にとどまる。そのため、事象を多角的に捉えられておらず、学習の深まりがない。

まず、支配に対する概念の調査を行った。江戸時代が未習であることから、政治の中心を担っているのが武士であると答えた児童は少なかった。次に、支配のイメージを調査すると、悪いイメージと捉えている児童が多く、理由として自由が制限されるためだった。さらに、15%の児童は争いにより解決した結果が支配であると回答している。これらのことから、児童は支配を強権的・武力的なものであるという認識をしていることがわかる。しかし、本単元で扱う江戸時代の身分は、住む場所や仕事などの制限がある一方で、与えられた仕事や役割を果たすことで百姓や町人の暮らしは保障されていた。支配のイメージを克服し、百姓や町人たちの暮らしをより生き生きと捉える必要があるだろう。

次に、『七難七福図』から、資料の読み取りと考えられることの調査を行った。百姓の様子の読み取りについては、米を俵に詰めるという表面的な理解にとどまっているのがわかる。また、武士の様子の読み取りは、百姓を監視しているという回答が多かった。百姓と武士、それぞれの様子を隅々まで読み取り、百姓と武士の特徴を捉えることはできている。しかし、資料の読み取ったことから関係性を問うと、「わからない」と答える児童が増えた。年貢の概念が未習であることも考えられるが、先に述べたように2つの事象を合わせて考えることができていないことがわかる。

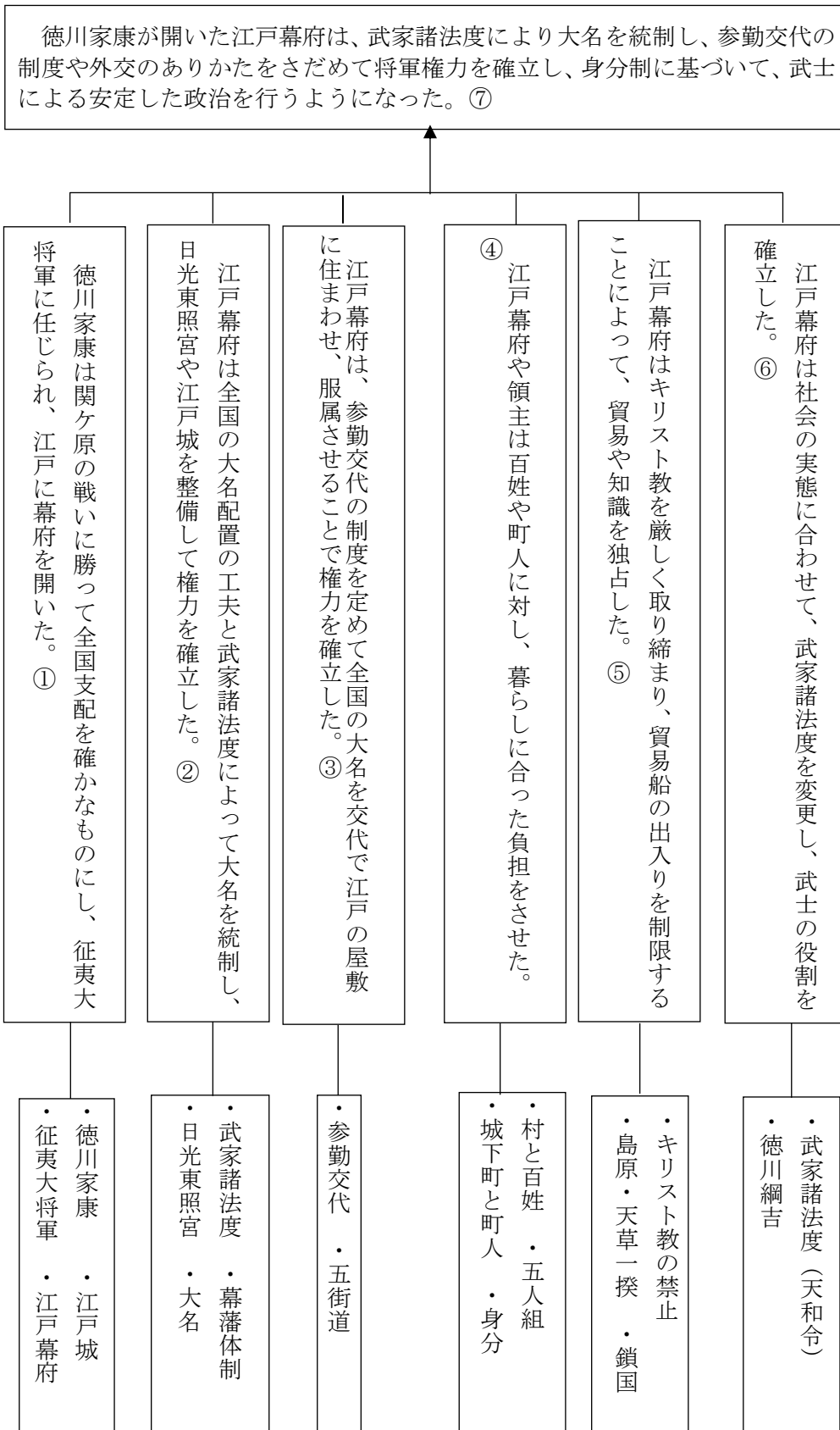
これらのことから、本時では、支配のイメージを克服するために、武士側の思いに触れる資料の提示を行う。武家諸法度や『伝国の辞』の読み取りを通して、武士が武芸者から為政者へ変化したことを理解できるようにする。

資料を総合的に考える手立てとして、当時の人々の思いを考え、相関図にまとめる。大名、百姓や町人、オランダ商人の思いを通して、江戸時代の様子に迫ることができる。しかし、これらの人々だけでは一方的な理解に終わってしまうため、江戸幕府や大名の支配に対する考えを読み解き、思いを考える。政策や思いを相関図に組み込むことで、江戸時代の人々の様子や思いに迫り、武士による一方的な支配ではなく、武士や百姓・町人が共存していたからこそ260年続く長期政権であったことを捉えさせたい。

4 知識の構造図

中心概念

まとめる



具体的知識

用語・語句



つかむ

調べる

5 小単元の目標

我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、地図や年表、その他の資料で調べ、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、表現することを通して、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を手掛かりに、武士による政治が安定したことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を解決しようとする態度を養う。

6 小単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などについて、文化財や地図、年表などの資料で調べ、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を理解している。	① 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに注目して、問いを見いだし、江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について考え、表現している。	① 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制について、予想や学習問題を立てたり、学習をふり返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。
② 調べたことを年表や文などにまとめ、武士による政治が安定したことを理解している。	② 江戸幕府の始まり、参勤交代や鎖国などの幕府の政策、身分制を関連付けたり総合したりして、江戸幕府の政策の意図や社会の様子を考え、適切に表現している。	

7 小単元の指導計画 (7時間扱い)

過程	時間	○主な学習活動と内容
つかむ	1	○年表や人口の推移、身分の割合を読み取り、小単元の学習問題を作る。 ・年表や、人口の推移のグラフから、江戸時代が約260年間続いたことや、戦国時代と比べて大きな争いが減ったこと、人口が約15万人から100万人増えたことから問いを見出し単元の学習問題について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">単元を貫く学習問題 江戸幕府はどのようにして約260年続く安定した世の中を維持したのだろうか。</div> ○学習問題について予想し、学習計画を立てる。
	1	○徳川家光が、どのようにして江戸幕府を受け継ぎ、権力を確立したか調べ、話し合う。 ・大名配置図や武家諸法度を読み取り、大名配置の理由を考える。 ・日光東照宮の写真や江戸図屏風から将軍の力がどれほど強まったのか考える。
調べる	1	○江戸幕府が全国の大名を従えるために、どのような仕組みを整えたのか調べ、話し合う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・参勤交代の制度を調べ、大名にとってどのような負担であったのかを考える。 ・なぜそのような制度を作ったのか、幕府の意図を話し合う。 ・参勤交代が人々の生活に与えた影響について考える。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸時代の武士以外の身分の人がどのように暮らしていたのか調べ、話し合う。 ・百姓や町人の役割や暮らしを調べる。
	1	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸幕府が、どのようにキリスト教を禁止していったのか調べ、話し合う。 ・島原の乱から、キリスト教を禁教とした理由を調べる。 ・当時の出島の様子を調べ、江戸幕府が外交を独占した理由を考える。
	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸幕府は、武家諸法度（天和令）にどのような思いをもっていたか調べ、話し合う。 ・武家諸法度（天和令）を読み取り、当時の武士に求められている役割を考える。
まとめる	1	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの江戸幕府が政治を安定させるために、人々に対して行ったことを整理する ・江戸幕府の行った政策に点数を付けて評価し、その理由を表現する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>単元のまとめ</p> <p>江戸幕府は、武家諸法度や参勤交代により武士を支配し、身分制をもとに人々をまとめたり、外国との貿易を制限したりすることで、武士による争いのない政治を行おうとした。</p> </div>

8 市教研社会科研究主題解明のための方策

市教研社会科研究主題

変貌する未来を切り拓く社会科学習～手応えの発見につながる『深い学び』の探求～

〈本年度主題解明のための方策〉

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

研究内容2 「深い学び」に導く授業づくり

本小単元では、研究主題の中から次の点に留意して指導及び評価に取り組んでいきたい。

研究内容1 「深い学び」に導く単元づくり

○武士の役割の変化が読み取れる単元構成

江戸時代という時代を理解するためには、武士、百姓、町人やその他の身分、外国というそれぞれ異なる社会集団がこれまでと役割が変化していることに気付く必要がある。特に、武士はその役割を大きく変え、戦闘集団から為政者へと姿を変えている。児童にとって武士とは、「支配する側」であり、その手段は「強権的」という認識をもっている。しかし、江戸時代の武士による政治は約260年続いており、「強権的な支配」のみでは長期的な支配にはならない。このような認識を変え、武士の為政者としての側面を理解し、社会的認識を深めることができるように、次のように単元を構成する。

まず、「つかむ」の段階では、年表の読み取りを行い、江戸時代と他の時代とを比較することで、江戸時代が長く安定した世の中であったことを捉える。また、政治が安定したことにより文化が発達し、人口が増えることや多様な身分・役割（仕事）が発生することを予想し、江戸幕府はそれぞれの身分にどのような政治を行えば約260年続く争いの少ない世の中を維持できるのか、問いを立てる。

次に、「調べる」の段階では、各身分に対して行った政策を調べる。大名の配置や武家諸法度、参勤交代の資料の読み取りを通して幕府と大名（武士）の関係を学ぶ。また、『七難七福図』といった資料から武士と百姓の関係を学ぶ。さらに、新田開発の様子から町人と武士の関係を学び、最後に外交と宗教の問題から幕府と外国の関係を整理し、図や言葉でまとめる活動を行っていく。これらの学習活動を通して、幕府側の行った政策を理解したのちに、江戸幕府や大名がどのような思いをもって政治を行っていたのか、武家諸法度（天和令）の読み取りを行い、明らかにする。

最後の「まとめる」の段階では、これまで学習してきた江戸幕府の政策を整理し、採点を行う。こうした、資料の読み取りを重ね、読み取ったことを結び付け、江戸時代を多角的に捉えられるようにすることで「深い学び」につながると考える。

研究内容2「深い学び」に導く授業づくり

○武士の役割を捉え直し、考えを深める教材の開発

武士と百姓はどのような関係だったかを理解するために『七難七福図』を用いる。この資料は、服装の違い、百姓の様子から武士と百姓の関係を想起し、百姓の年貢の納め方から当時の村の様子をうかがい知ることができる。ここまでの資料から、児童は百姓の重い負担に気付くことができるが、武士側がなぜ百姓に負担を強いるのか理解することが難しい。

そこで、本時では織田信長の『天下布武』と武家諸法度（天和令）の比較を行う。『天下布武』については、織田信長が広く武力をもって天下を統一する思いを表した資料である。天和令は、江戸幕府が武力を背景とした武断政治から、民衆の教化によって政治を行う文治政治の転換点として考えられる資料である。教科書で見受けられるのは、家光が作ったとされる元和令で、幕府が大名達を統制するための資料として扱われる。しかし、武家諸法度には、大名達の藩政に対する心構えを幕府が示した資料とも考えられる。特に天和令では、元和令と異なり「文武忠孝を励し、礼儀を正すべき事」とあるように武芸や学問だけでなく、武士の礼節にまで言及している。また、藩政を行う上での心構えや節約を呼びかけるものまであり、武士が勝手を行う立場ではなく、民の模範となり教化していく、為政者の立場を想定していることがわかる。さらに、そこから年貢によって支えられている武士の姿を考えることができる資料である。これらの読み取りを通して、武士の役割が武芸者から為政者へと変化したことを捉えさせる。

また、幕藩体制の中で外様大名の思いがわかる資料として、米沢藩の上杉鷹山が著した『伝国の辞』を提示する。これは武家諸法度を通じて、地方ではどのような政治がなされていたのかを知る一端として扱う。『伝国の辞』は、天明5年（1784年）に米沢藩藩主であった上杉鷹山が、息子の治広に藩主の座を譲った後、君主としての心構えを説いたものである。藩主としては、人民をいかに大切に扱うべきか、という当時の藩主の意識を読み取ることができる。こうした資料を読み取り、当時の武士と百姓の関係が一方的な支配の対象だったのではなく、共に役割を担うことで江戸時代が発展していったことを取り上げることで、身分制への「深い学び」につながると考えた。

9 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・江戸幕府や大名の政治のしくみについて整理し、武士の役割の変化を理解する。【知識・理解】

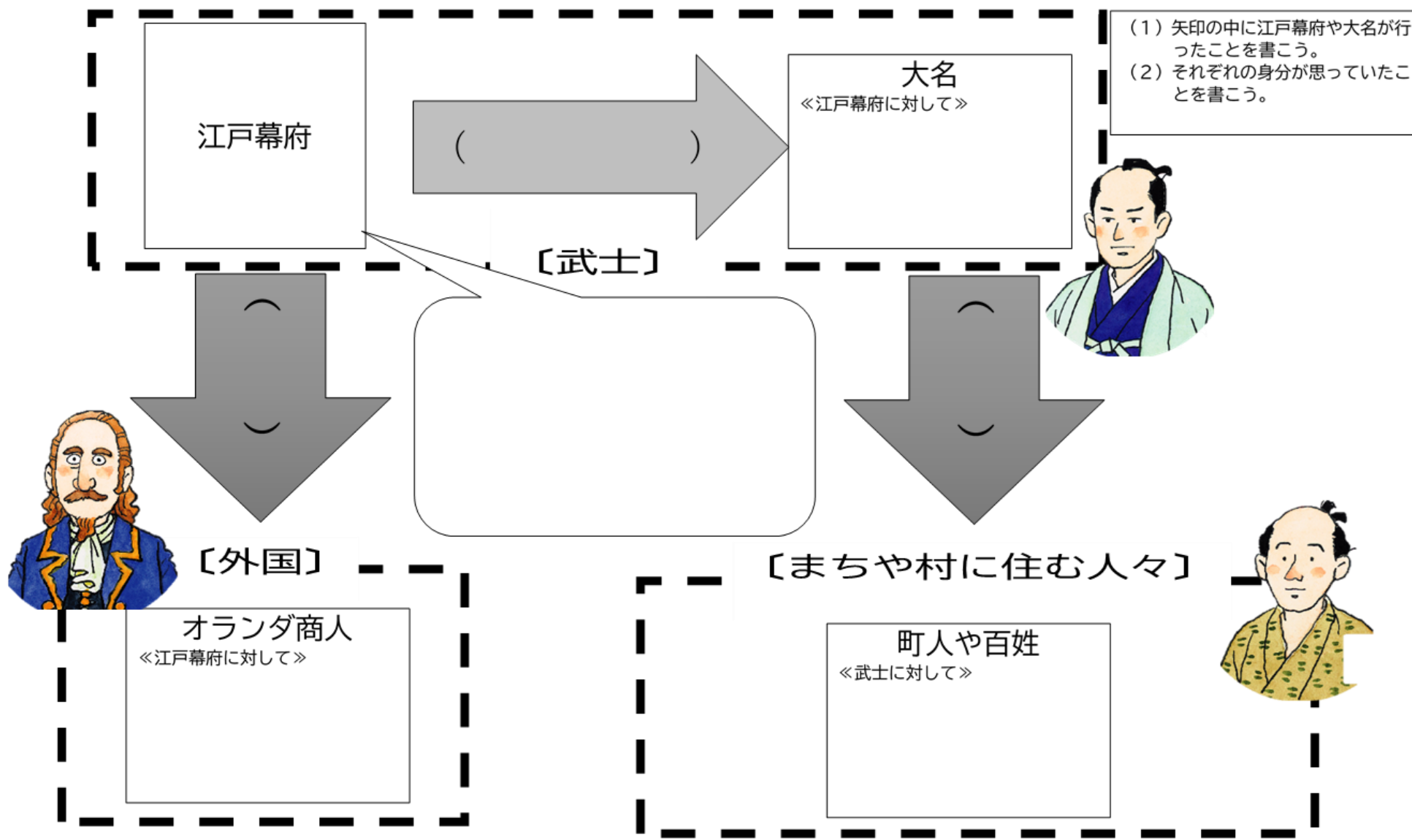
(2) 本時の展開

時配	学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◆評価	資料
5分	1 既習事項から、江戸幕府の政策についてどう思うか考え、本時の学習問題を作る。 ・参勤交代や踏み絵などとても厳しい。 ・武士や百姓を強力に押さえつけようとしている。 ・幕府が有利になるように支配している。	○根拠のない発言にならないよう、これまでのワークシート（資料①）から考えるよう声掛けを行う。 ○出てきた意見を踏まえ、「幕府だけが有利になるためだけの政策で幕府が260年も続くのか」「どのような武士が必要なのか」問いかけ、武士の思いに迫ろうとする動機付けを行う。	資料①
江戸時代の武士に必要な力は何だろうか。			
3分	2 武士に必要な力を予想する。 ・軍事力や経済力 ・人々をまとめる力 ・知識がたくさんある	○意見が出ない場合は、既習事項を振り返る。	
10分	3 幕府が大名に求めていることを、徳川綱吉の出した武家諸法度（天和令）から読み取る。 ・大名同士の争いは話し合いで解決させようとしている。 ・節約させようとしている。 ・大名たちにきちんとした政治をするように求めている。	○戦国大名との比較のために『天下布武』を提示し、戦国時代との違いを明確にする。 ○徳川綱吉の肖像画を提示し、在位年数や五代目征夷大將軍であり、その綱吉も武家諸法度を作成したことを伝えてから、『武家諸法度（天和令）』を提示する。 ○武家諸法度（天和令）を読み取れるように、平易な文章に書き換え、資料として配付する。 ○読み取りが困難な児童には、机間巡視の時に補助を行う。	『天下布武』 『武家諸法度（天和令）』（資料②）
15分	4 活動2で出てきた意見は誰にとってどんなメリットがあるのかクラスで話し合う。 【幕府・大名】	○意見の整理を行うために、立場ごとにどんなメリットがあるのか板書していく。 ○武家諸法度が誰のためのものだった	

5 分	<ul style="list-style-type: none"> ・大名同士の争いが話し合いで解決することになったら、戦争の負担がなくなる。 ・武士が生活を節約することで、武士自身も余計なお金を使わなくて済む。 <p>【百姓・町人】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士の節約がうまくいけば、百姓や町人の負担も軽くなる。 ・大名がきちんとした政治を行うことで、人々は暮らしやすい世の中になる。 <p>5 ワークシート（資料①）の幕府の吹き出しに、武士に求められている力をまとめる。</p>	<p>たか発問し、武家諸法度が大名の統制のためだけでなく、百姓や町人のことも考えられて作られたこと、争いのない世の中を作ろうとする思いがあったことに気付けるようにする。</p> <p>○児童の様子によっては、鎌倉時代や室町時代の武士の役割について確認する。</p> <p>◆ノートや発言の内容から、武士の役割が変化してきていることを理解しているかを評価する。[知・理]</p> <p>○江戸幕府の行った政策を振り返り、その目的意識が、武士による安定した世の中を作ることであったことを確認する。</p>	資料①
7 分	<p>江戸幕府は、武芸だけでなく人々のことを考えた政治を行う力も求めた。</p> <p>6 地方の政治の例として、『伝国の辞』を読み取る。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【伝国の辞】 1784年</p> <p>一、国(藩)は先祖から子孫へ伝えられるものであり、我(藩主)の私物ではない。</p> <p>一、民(領民)は国(藩)に属しているものであり、我(藩主)の私物ではない。</p> <p>一、国(藩)・民(領民)のために存在・行動するのが君主(藩主)であり、“君主のために存在・行動する国・国民”ではない。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸幕府だけでなく、地方でも政治をしっかりとやろうと思っているんだな。 ・戦うことよりも、人々のことを考えているんだな。 	<p>○江戸幕府だけでなく、地方での武士の思いがわる資料の例として提示する。</p> <p>○武家諸法度（天和令）より約100年後の外様大名である米沢藩の藩主、上杉鷹山であることを伝える。</p> <p>○資料を音読しながら解説する。</p> <p>○読んで感じたことを数名指名して共有する。</p>	『伝国の辞』

7 江戸幕府と政治の安定

名前



資料②

武家諸法度（天和令）

- 一、学問・武芸・ちゆうぎ忠義・こうこう孝行に励み、はげ礼儀を正しくすべきこと。
- 一、喧嘩口論は慎むべきで、私的な争いごとは禁止する、もしやむを得ない理由がある場合は、奉行所に申し出て指示を仰ぐこと。
- 一、おくりもの、結婚の儀式、酒や料理をとりそろえてのもてなしや屋敷の建設など、その他何事においても儉約に心掛けること。私的な贅沢をしないようにすること。
- 一、領地での政務は心清く私欲なく行い、国の勢いを衰え弱らせてはならないこと。道路、駅の馬、船や橋などを途絶えさせることなく、往来させること。
- 一、全て江戸幕府の法令のごとく、どこにおいてもこれを遵守すべきこと。

天和三年（一六八三年）七月二五日

※内容を一部読みやすくしたもの。